

# それって皮膚がん？

## 基底細胞がん

“基底細胞がん(BCC)”は頻度的に多くみられる疾患の一つです。80%以上が顔面、特に眼瞼、鼻およびその周囲に多く生じるため、摘出後の皮膚欠損創に対する皮膚の再建が問題になります。しかし、早い時期に診断することができれば小さな皮膚切開ですみ、単純に縫縮することもできますので術後の傷も目立ちません。

「出血する黒いデキモノ」は悪性の診断がつくことが多く、もし思い当たるようであれば是非受診をオススメします。

## 有棘細胞がん



昔の傷跡や火傷の痕が最近になって膨らんできて、出血する。

小児期に火傷や大きな怪我をした痕があり、最近になり一部が膨らんでクレーターのようになり中央が傷になってきた。こういうエピソードを聞くと、形成外科的には有棘細胞癌を疑います。

気になるデキモノは切除して顕微鏡の検査をすれば、良性・悪性がはっきりします！30分の日帰り手術で出来ますので、悩んでいる人は早めに切除しましょう！

## 日光角化症・ボーエン病

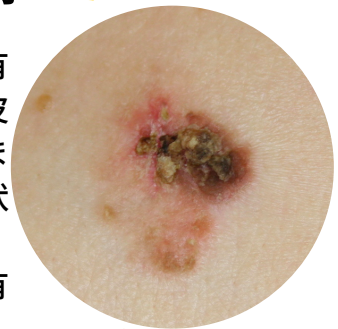
### 悪性黒色腫

ほくろが急に大きくなった。左右非対称で、辺縁の色が染み出している。



悪性黒色腫はメラニン色素を作り出すメラノサイトが癌化して発生する皮膚癌です。人種差があり、白人で発生が最も多く、日本人は10万人あたり1~2人とされています。

ボーエン病は、有棘細胞癌と同様に表皮の有棘層の細胞が癌化しますが、その増殖は表皮の中だけに留まり（表皮内癌と呼ばれています）、真皮に及んでいない状態です。この状態であれば通常転移することはありませんが、放っておくと癌細胞が真皮に侵入して有棘細胞癌と同じ状態になります。



カサカサしたところがいつまでたっても治らず、徐々に範囲がひろがっている。こういったときには日光角化症・ボーエン病のような上皮内癌を疑います。

